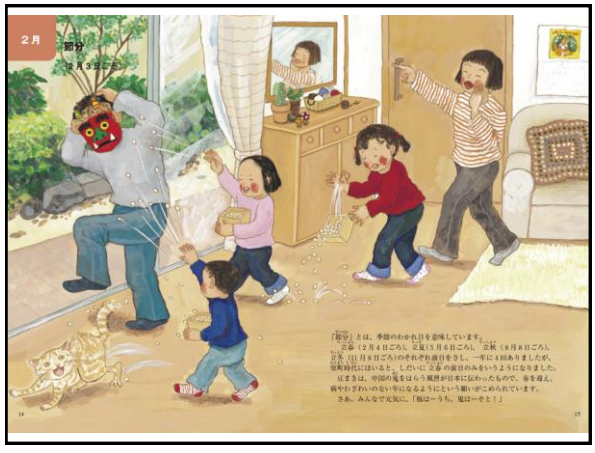
保育を豊かに
季節の行事の由来と食のお話

絵本・童話作家
すとう　あさえ



7月
七夕
7月7日

7月
七夕
星伝説とおかざり
あみかざり
織姫が織りの上達を願います。
短冊
願いごとを文字でかきます。もともとは織や裁縫の上達を願います。
あみかざり
こまかく切ると、長いあみになります。
切った紙をつなげて長くする。
折って切り目を入れる。
輪にしてとめる。
吹流し
織姫の織り糸をあらわします。

9月
お月見
9月20日前後

10月
紅葉の秋とあそぼう

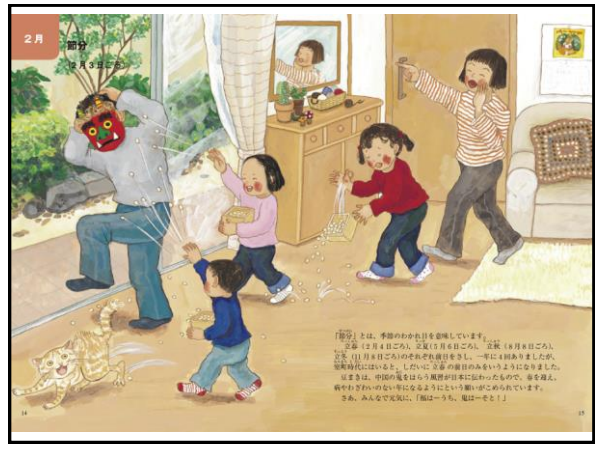
12月
冬至
12月22日ごろ
なんきん
(かぼちゃ)
さつまいも
にんじん
れんこん
こんにゃく
みかん

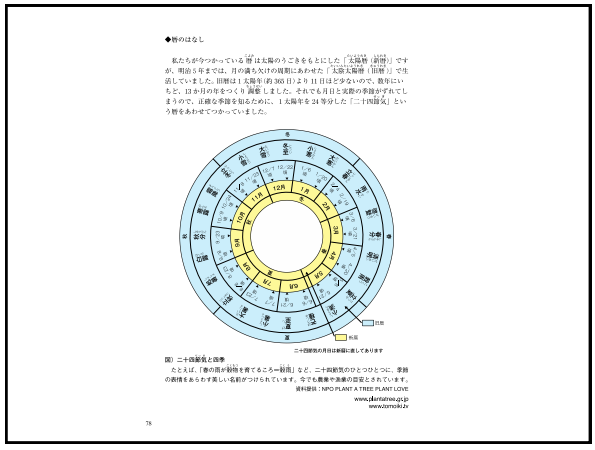
12月
クリスマス
12月25日
FIRST PLACE
「クリスマス」とは「キリストのミサ」という意味で、救世主イエス・キリストの誕生を祝う日です。4世紀ごろまでは、太陽神の誕生を祝う冬至祭と救世主の誕生をかさねて、12月25日にクリスマスをおこなうようになったとされています。
24日はクリスマスの前夜祭、クリスマス・イブです。子どもたちの楽しみは、イブの夜にサンタクロースがとどけてくれるプレゼントです。

12
大そうじ
12月13日～28日
むかしは12月13日を正月の準備をはじめる日として、家を清めるために「すすはらい」をしました。
正月用のしめかざりには、年神さまを迎える神聖な場所をしめす意味があり、地方によってさまざまな形があります。正月かざりは、28日までにかざりましょう。29日は「苦が押つ」、30日は大みそかなので、「一夜かざり」といい、お迎えする年神さまに失礼にあたるとされているからです。

12月
大みそか
12月31日
ゴ～ン
大みそかにうつ除夜の鐘は、「人間には百八つの煩悩があり、それらをはらうために百八つの鐘をうつ」という意味があります。また、むかしは、大みそかの日の入りが新しい日のはじまりとされ、その日の夕食が新年最初の新しい食事でした。江戸時代にはじまった年越しそばもその ひとつ。大年はそばのように細く長く幸せに、という意味があります。
大みそかは、むかしから、一晩中ねないで年神さまをお迎えする日。季節の移ろいの中で、家族とともに、自然とともにすごす一年が、また、はじまります。

1月
お正月
1月1日
お正月は、年神さまを家にお迎えして、新しい年の豊作と平和を祈る行事です。
むかし、えくぼくぼの人のたましいは山にいって、山の神となり、豊作と子孫繁栄をもたらす年神さまとして、お正月に子孫のもとをおとずれると信じられていました。お年玉も、「年神さまからたましいをさずかる」という意味の「玉魂」が由来とされています。
新しい一年がはじまります。
家族そろって、「あけまして、おめでとう！」


2月
節分
2月3日ごろ
「節分」とは、季節のわかれ目を意味しています。
立春（2月4日ごろ）、立夏（5月5日ごろ）、立秋（8月8日ごろ）、立冬（11月8日ごろ）のそれぞれ前日をさし、一年に4回ありましたが、室町時代にはいると、しだいに立春の前日のみをいうようになりました。
ほまうは、中国の鬼をはらう風習が日本に伝わったもので、魔を祓え、病やわざわいのない年になるようにという願いがこめられています。
さあ、みんなで元気に、「福はーうち、鬼はーそと！」



◆暦のはなし

私たちが今つかっている暦は太陽のうごきをもとにした「太陽暦（新暦）」ですが、明治5年までは、月の満ち欠けの周期にあわせた「太陰太陽暦（旧暦）」で生活していました。旧暦は1太陽年（約365日）より11日ほど少ないので、放牧にいったと、日々月の年をつくり調整しました。それでも月日と実際の季節がずれてしまうので、正確な季節を知るために、1太陽年を24等分した「二十四節気」という暦をあわせてつかっていました。

二十四節気の月日は新暦に直してあります

図）二十四節気と四季

たとえば、「春の雨が穀物を育てるころ＝穀雨」など、二十四節気のひとつひとつに、季節の表情をあらわす美しい名前がつけられています。今でも農業や漁業の目安とされています。

資料提供：NPO PLANT A TREE PLANT LOVE
www.plantatree.gr.jp
www.zomoki.jp

78

2月

節分

豆まきと鬼

福豆
節分のときにまく、いった大豆のことです。「豆にやどった穀物の霊の力で鬼（わざわいをもたらす）という意味があります。

豆よけ（わざわいをはらうこと）のおまじないに、自分の年よりひとつ多い数の豆を食べます。

やいかがし
ひいらぎの枝に、焼いたいわしの頭をさして玄関にかざります。鬼は焼いたいわしのにおいをきらい、ひいらぎのするどいとげに刺されていたいので、家に近づくことができません。鬼はらいのおまじないです。

鬼のお面の作り方

紙袋

いろがみ

輪ゴムを耳にかけるタイプ
輪ゴムをつける場所の裏にセロテープをはって補強してからあなをあけます。

けいと

ひも

紙袋をすぽっとかぶるタイプ
紙袋をかぶって、目と口の位置をチェックしてあなをあけます。

世界にひとつしかない、オリジナルの鬼のお面をつくってみましょう。

36

3月

ひな祭り

3月3日

ちかごろ中国には、3月はじめの巳の日に川に入って、身のけがれを清める風習があります。この風習と、昔流の季節を迎えるこの時期に、夜や山や野で一日をすごす古代日本の風習が合体。紙の人形に自分のけがれやわざわいをうつして、川や海に流す「流しびな」の行事が生まれました。

平安時代に、「流しびな」と幼い子どもたちの「ひなのあそび（人形あそび）」がむすびつき、時代が室町から江戸にうつるにつれ、人形や道具をかざって、女の子の成長と幸せを願う日になっていきました。「もものお節句」ともよばれています。

※わかは、年・月・日・時期・方位に「三」をつかっています。

3月

ひな祭り

おかざりとおひなさま

ももの花
日本や中国では、ももは「悪魔をはらう神さまの木」といわれています。

ひしもち
ひしもちの色である「白・緑・紅」は、「白＝雪がとけて、緑の草がめばえ、紅＝花がさく」という意味があります。

白酒
ももの紅色と白酒の白色をかざることで「紅白」になり、めでたいとされています。

子どもたちの創造力にかかれば、世界にひとつしかないおひなさまが、どくどくと誕生します。

紙ねんどおひなさま

1. 紙ねんどをまるめて、からだをつくる。
2. ぎんなんにペンで顔をかき、からだにうめて、かたかす。
3. かわいたら、紙の具でもようを描く。

石ころおひなさま

すきな形の石をこつこつ金と銀の水引をくるりとまく。茶の花ともものの花を、それぞれはさむ。

花のおひなさま

茶の花をおびな、ももの花をめびなに見たて、それぞれかびんにさす。かびんに水引を巻めにむすび、茶の和紙を下にしいて、ひな祭りのふんいきをだします。

土だんごおひなさま

かためのどろだんごをこつつくる。野の花をそれぞれにあしらって、ぎぶとんには、麗っぱがにあいます。

20 21

※ 名所江戸百景　歌川広重　水道橋駿河台